



龍 達古袋小学校

地域と築いた141年の歩み 変わらない教育への情熱を注ぐ

1)出席者が一同に歌った校歌が体育館中に響き渡った/2)目時校長から鈴木市教育委員会委員長に校旗が返納された/3)お別れの会の一コマ。「達古袋神楽」の練習をしたことなど数々の思い出が劇で披露された/4)ピカピカに磨かれた119メートルもある同校自慢の廊下/5)校舎の裏にあるシイタケ林。はだ木がずらりと並ぶ/6)大正10年に農業教育協会により設置された図書館の額



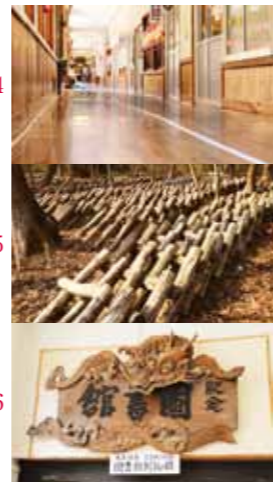
3



1

3月24日、141年の歴史を誇る達古袋小(目時雄二校長、児童27人)の閉校式が行われ、約300人の関係者が出席した。明治5年に創立した同校は古くから地域に根差し、教育機関としての役割にとどまらず、地域の文化やコミュニティの拠点として親しまれてきた。

学区は栗駒山の裾野に広がる農村地帯。山林面積が広く、米作、肥育牛などの畜産、シイタケ栽培、林業などが盛んな地域だ。地域の教育に傾ける熱意は強く、大正3年に公益社団法人達古袋農業教育協会を設立し、校訓の「晴耕雨読」の教育を実践するため、大正10年には農民図書館が設置された。さらには学区内の全戸がPTAに加入し、プール清掃や校舎周辺の草刈りなどの奉仕作業を通じ



4



5



6

教育環境の整備に取り組んできたほか、地域住民を講師に招いた郷土芸能「達古袋神楽」の伝承活動や特産のシイタケ栽培など、地域と学校が一体となった教育活動が行われてきた。

式に続いて行われたお別れの会では、児童による達古袋小の歴史や思い出をつづった「心のふるさと 達古袋」の劇が披露され、参列者は懐かしんだり、目を潤ませたりしながら児童の演技を通して思い出を振り返り、胸に焼き付けた。

4月からは厳美小と統合し、在校生の新たな学校生活が始まる。多くの新しい仲間と友情を築き、切磋琢磨しながら大きく成長してくれることが達古袋地域のさらなる願い。学校が閉校しても地域の教育に対する情熱はこれからも変わることはない。



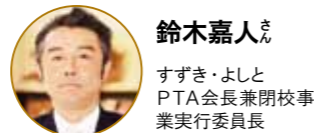
目時雄二
めとき・ゆうじ
31代校長

懐かしさを感じさせ、いつも温かく迎えてくれた校舎が好きです。歴史の重さや地域の皆さんの思いを感じながら閉校の任務を全うできたことに感謝しています。児童たちの新たなスタートにエールを送ります。



佐々木明日華
ささき・あすか
児童会長

地域の先輩がさまざまな思いを込めて作り上げた学校。感謝の気持ちを込めた雑巾がけでは、みんなの思いが一つになりました。木の匂いにして温かみのある校舎は、閉校しても忘れません。今までありがとう。



鈴木嘉人
すずき・よしと
PTA会長兼閉校事業実行委員長

閉校で地域の拠点がなくなってしまうのは、地域の皆さんなどの寂しさははかり知れません。達古袋小学校は、厳美小学校に統合されます。子供たちの教育環境が整い、多くの友人に囲まれることを願っています。



- 校長 目時雄二
- 児童数 27人
- 所在地 萩荘字八幡 153-1
- 創立 1872(明治5)年



閉校記念碑の前で笑顔で感謝する達古袋小の児童たち

ありがとう これまでも、これからも

最後の言葉はありがとう。「感謝」だ。輝かしい歴史と伝統を誇る達古袋、摺沢、渋民、曾慶、薄衣、門崎の6小学校がこの春、歴史の幕を閉じた。達古袋は厳美小学校と統合、摺沢、渋民、曾慶の3校は新生大東小学校に、薄衣、門崎両校は新生川崎小学校として新しい一歩を踏み出した。6校の伝統と精神は、ずっと、受け継がれていく。新しい学びやで。

特集1 学校統合

閉校

【第1部】